

# 学報

スポーツ文化の風を発信する

# NITTAIDAI

# 29

2011.Summer

# “今”できること

## 特集 ■ 体育・スポーツに“今”できること

- 学長エッセイ「つながりを生きる」架け橋たれ — 1
- Interview ● スポーツの力を信じて — 2
- 社会が日体大に期待すること — 3
- スポーツにできること。私たちにできること。 — 5
- 新採用教員フリートーク — 7
- 平成24年度 入試改革の取組み — 9
- 大学院 コーチ実践指導力の向上プログラムの開発 — 11
- クラブ情報 ● 2011年度上半期クラブの主な大会成績 — 13
- NEWS ● 2011年度上半期ニュース — 14
- INFORMATION ● dot.NITTAIDAI — 15



# 特集

## 体育・スポーツに



# 「今」 できること

一つのメダルは、アスリートの並々ならぬ努力はもちろん、数えきれない多くの人々の力によって支えられている。だからこそ、与える感動が大きいのだ。スポーツは人と人をつなぎ、勇気づけ、そして希望に導く。今、日本はかつてないほどの困難な状況にある。そんな中、オリンピックという大舞台で、108個のメダルを獲得してきた日体大として、どうしたら人々の期待に応えることができるのか。何をすべきなのか。専門家の意見や学生のメッセージを紹介することで、一緒に考えてみたい。

今こそ、チャンスメーカーとなるべき時である。

### 学長エッセイ

## 「つながりを生きる」架け橋たれ

—体育・スポーツに“今”できること—



日本体育大学  
日本体育大学女子短期大学部

学長 たにがま りょうしょう  
谷釜了正

現代社会は「つながりを生きる」ことが難しくなっています。人と他人とのつながりの機会を知らず知らずのうちに現代社会は奪いつつあるように思います。

こうした現象を私たちはこのたびの東日本大震災でも経験しています。ただでさえ過疎に陥っている村々は大地震・大津波によって崩壊し、地方都市も都市の機能を完全に失い、つながりを生きた場を喪失してしまいました。原発事故は地震津波に加えて目で見ることでできない、サイレントな敵との戦いを強要し、地震と津波からの災害を免れた都市や村を廃墟化しています。

著名な国際的文学者 村上春樹氏はスペインのカタールニア国際賞の受賞スピーチの中で、こう語っています。

堤防を乗り越えて襲ってきた大波にさらわれ未だ遺体も見つかっていません。おそらく多くの方々は冷たい海の底に沈んでいるでしょう。そのことを思うと、もし自分がその立場になっていたらと想像すると、胸が締め付けられます。生き残った

人々もその多くが家や財産を失い、コミュニケーションを失い、生活の基盤を失いました。根こそぎ消え失せた集落もあります。生きる希望そのものをむしり取られた人々も数多くおられたはずで

(毎日新聞、2011・6・14夕刊)

私たちが求めてきた豊かにして平和な社会はいったいどこに飲み込まれていったのでしょうか。そしてまた、「今」私たち日本体育大学は被災地の方々どのようにむきあつたらよいのでしょうか。スポーツは人と人との心をつなげる接着剤的な役割を持っています。運動してもらうことによって内向きのところを外に向かわせることもできます。日体大が教職員と学生を一体化して被災地の方々にスポーツや体育を運ぶことができれば、スポーツを通して「元気」と、心のつながりと、「運動による心身の健康の喜び」とを運ぶことができます。私たちは息の長い活動を心がけ、被災地の方々に「元気な笑顔」を取り戻していただきましょう。

「和顔愛語」の思いを胸に!

# 心と心をラリーがつなぐ。 教員になり、卓球で南相馬を元気にしたい。

体育学科1年 佐藤 徳子さん 卓球部

本学の中にも、震災の被害にあったり、家族が避難生活を余儀なくされている学生・教職員・関係者がいます。その一人、体育学科1年、佐藤徳子さんに話を聞きました。

福島県南相馬市で生まれ、高校(福島県立小高工業高等学校)まで過ごしました。卓球を始めたのは小学校1年生の時。日体大出身で教員をしていた叔父に誘われたことがきっかけです。厳しくて辞めたくなったこともしばしばありましたが、もともと負けず嫌いな性格。高校ではインターハイ、全日本卓球選手権に出場し、自分も教員になって卓球を教えたいという夢を持つようになりました。

3月11日。それは、ちょうど入寮の日…。

南相馬市から常磐線で上京し上野駅に到着。日体大に向かうため山手線に乗った直後のこと。今までに経験したことがないような揺れに襲われました。

それからは、ただ歩くこと約11時間。人の流れがどこに向かっているのかもわからず、心細くなって交番で尋ねました。途中から親切な人が渋谷まで付き添ってくれました。

午前2時。桜新町の駅に先輩が迎えに来てくれ、ようやく日体大へ。そして、電話がつながり、やっと聞くことができた家族の声。

津波は近くまで押し寄せ、家も崩れた箇所があるとのこと。でも、全員無事。ほっとして、全身の力が抜けました。

私はそのまま合宿所に入り、先輩の家にお世話になった期間はあったものの、避難所にいる家族に比べれば恵まれた大学生活が始まりました。

地震発生から2週間後、練習試合に来てくれた家族と再会。

母の涙を見て、思わず泣いてしまった私。

不自由な避難所暮らしをしているのに、母は電話で私を励まし続けてくれました。

今、実家が警戒区域のため、家族は都内の避難所に移っています。

大変なのに「全然心配しなくてもいいから。先生になれるように頑張れ!」と言ってくれています。

私も弱音なんて吐けない。いま私にできるのは、少しでも多く練習して家族の期待に応えること。

卓球部の活動も充実しているし、クラスでは「大変だったね、頑張ろう」と声をかけてくれる友達に囲まれています。



後になって、高校時代の友達や先生で、亡くなった方がいることを知りました。

卓球で新聞に載るたびに声をかけてくれた近所の人たち。私の大好きな街。

離れていても気持ちがつながっている。そして、いま日体大の仲間たちがいる。

夢は、日体大の仲間たちと一緒に頑張って教員になること。

そして地元へ帰り、卓球でまた元のように南相馬を元気にすること。

私はスポーツの力を信じています。

# 社会が日体大に期待すること

行動力、リーダーシップ、チームワークは、日体大生が誇りとしてきたことである。日体大の「スポーツの力」が、危機管理・支援活動において重要な役割を果たすことは言うまでもない。東北地方の被災地に足を踏み入れた教員、震災時支援活動にあたったOB、また地域の視点で世田谷区の行政担当者から話を聞き、私たちにできることを考えたい。

## 東北のために、

## 日体大の力と気持ちを集結させたい

～宮城県石巻市における支援活動報告～



日本体育大学 東日本大震災復興支援プロジェクト長

### 三宅 良輔 准教授

てくれたのですね」などとても感謝されました。

#### ●現地での具体的な活動

被災地には体を動かしたい盛りの子どもたちがいるのですが、体育館は避難所となり、運動場も駐車場になっていて、子どもたちが思い切り遊べないのです。いろいろなお手伝いをしましたが、子どもたちと体を動かして遊んだりもしました。子どもも本気で体をぶつけてきて、大はしゃぎでした。それを見ていた避難所のリーダーは、あんなに元気のいい子どもを見たのは初めてだと嬉しそうでした。

石巻市での支援活動も2団、3団と派遣し現地の学校で授業補助等も行っています。岩手県においても、大船渡市や陸前高田市に入り、瓦礫撤去等のボランティア活動も行っています。陸前高田市立広田中学校からは、学校の運動会で日体大のエッサッサを披露し元気づけて欲しいという要望を受けて、支援活動に行ってきました。また、昼間は避難所はお年寄りばかりになるのですが、学生がちょうどそのお年寄りの孫と同じ世代で、いろいろなお話をすることで、気持ちをほぐすことができたのではないかと思います。

#### ●支援をして感じたこと

やはり現地の方のニーズに合った活動が第一です。震災から4か月が経ち、避難所には同じ姿勢ですつといるために体がこわばっている人が多くいました。このような体の問題を、スポーツで支援できる日体大の役割が今後多くなるのではないかと思います。

#### ●今後の取組み

これはもちろん数回で終わるものではないと考えています。1年、2年と長く支援していくためにプロジェクトチームが立ち上がり、運動部によるスポーツ教室の開催や、部活動の補助、またボランティアに行った地域で地方実演会なども開催し、そのとき会った人たちとつながっていければとも考えています。さらに、「日体大ボランティア隊」という仕組みを作り、支援活動を行いたいという学生に、そこで自分は何ができるかを登録してもらったことも考えています。そうすると、現地の要望にあった人が行くことができ、質の高い支援ができると思います。

#### ●学生たちに伝えたいこと

まず、ボランティアにはできれば行ってほしいですね。しかし、興味本位で行くのは論外です。自分は何ができるか、何をしに行くかを明確にしていくべきです。そして、参加したら、現地の人とお話をして、そのことを自分の友人やまわりの人達に伝えてほしいです。そうするとあの人には元気かなと思いたしたりして、現地とつながっていくられるのです。

また今回の震災で体験した事を伝えていく役割を担うことができます。このことはとても重要なことだと考えています。

日体大には幼児から高校生までを対象に、スポーツの指導ができる学生、身体の不自由な人や高齢者の健康、スポーツを勉強し、支援できる人などさまざまな支援が実現できる人的資源が豊富にあるのです。このプロジェクトは、まだまだスタートしたばかりで、多くの人の気持ちと力を合わせていきたいと思っています。

#### ●被災地での活動の様子

5月のゴールデンウィークに、3泊4日で宮城県石巻市において支援活動を行いました。参加したのは短期大学の学生10人、セパタクロー部の学生6人、そして教員6人です。現地での実質的な滞在は3日間と限られていましたが、直接足を踏み入れた意味は大きかったと思います。テレビなどで見た以上にショッキングな光景でした。警察や自衛隊が被災者のために活動している姿、ヘドロかきに汗を流す一般ランテアの人々の姿を見て、頭が下がる思いをしたことを覚えています。

#### ●石巻市に赴いた理由

石巻市には本学の亀山先生の自宅があり、その縁でピンポイントで石巻市の避難所のボランティアをさせていただきました。通常ボランティア活動は現地のボランティアセンターが管理しているのですが、被災者の支援の声がなかなか届かないというミスマッチがある中、われわれは直接的で、長期的な支援を行うために被災地へ入りました。現地の方々にとどのように入ってもらえるか不安がありました。日体大ということで快く迎えてくださいました。東京から、そして3日間同じところに行ったことで「わざわざ東京から来てくれたのですか」とか、「また来





# 「自助」の意識を持つこと そして日体大の資源を活かした「共助」に期待

世田谷区危機管理室 災害対策課長 **笹本 修 氏**

## ●世田谷区の取組みについて

皆さんの安心・安全な暮らしを守る  
バイブルとなっているのが、「世田谷区  
地域防災計画」です。これを基に、さま  
ざまな対策や災害発生時の対応を行っ  
ています。例えば、世田谷区は日体大を  
はじめとする区内の大学等と災害時に  
おける協力協定を結んでいます。こ  
れも防災計画に基づくものです。

現在、世田谷区の人口は約88万人、  
東京23区で第一位です。首都圏直下地  
震が発生した場合、約18万人の避難生  
活者が出ると想定されています。しかし、  
東日本大震災の例でも明らかかなよう  
に、被害は地域や状況により一様ではあ  
りません。仮に、深沢周辺で甚大な被害  
が発生した場合、協力協定に基づき、日  
体大に校地の使用やボランティア支援  
などをお願いすることになります。

また、今回の震災においては、帰宅困  
難者の問題がクローズアップされまし  
た。混乱の中で無理して帰宅するより、  
むしろ安全な場所に留まって、交通機  
関が回復してから帰宅する方が望まし  
いでしょう。この場合に備え、学生や職  
員用の水や食料を備蓄しておくことも

必要でしょう。

## ●できることを日頃から

災害時の対応はもちろん、防災に対  
する啓発活動を行うことも私たちの役  
割の一つです。まず、皆さんには「自助」、  
つまり自分でできることは日頃からし  
ておくということをお願いしたいと思  
います。

少なくとも2〜3日分の食料、ある  
いは水だけでも備えておけば、災害発  
生直後の混乱期は乗り切ることができ  
ます。水分や塩分の重要性はスポーツ  
を学ぶ皆さんなら十分理解されている  
ことでしょう。（私自身もトライアスロ  
ンやフルマラソンをやっていますので、  
水と塩があれば暫くは何とかかなる、と  
体で理解しています。）

区のホームページでは、防災計画や  
防災マニュアル等を公開しています。大  
切なのは、自分の身を地震から守るこ  
と。そしていち早く避難すること。世田  
谷区には津波は来ないかもしれませんが  
がもし皆さんが合宿やレジャーで海辺  
にいたら…。決して他人事ではないので  
す。今回の震災をきっかけに、ぜひ防災  
に対する意識を高めて欲しいと思いま  
す。

## ●日体大に期待する点

世田谷区と日体大は、これまで「世  
田谷246ハーフマラソン」の実施等、  
スポーツ振興施策を中心に連携して  
きました。今後、防災にも広げ、さらに  
様々な切り口で「顔が見える関係」を築  
いていくことができれば良いと考えてい  
ます。

具体的には、地域で行われている防

災訓練に積極的に参加して欲しいと思  
います。そういう機会で、日体大が持つ  
ている力、資源を地域の人たちにアピ  
ルして欲しいのです。

例えば、日体大にはAEDが主要な  
建物・設備にすべて設置され、多くの学  
生が講習を受けていると聞いています。  
こうしたことを地域の人々に知っても  
らえば、万が一の時は日体大へとい  
うことになり、より迅速な救命活動が可  
能になるでしょう。

さらに、寝たきりの高齢者、車椅子利  
用者など、災害時要援護者への対応で  
も力が発揮できるはず。実際に、大  
学と連携し訓練を行っている町会・自  
治会もあります。日体大が持つ若い力、  
豊富な資源に期待しています。

## ●日体大生へのメッセージ

地震は揺れそのものよりも、続いて  
起こる現象により被害が拡大します。  
1923年の関東大震災では火災、東  
日本大震災では津波による犠牲者が  
90%以上を占めています。これらのこ  
からも、地震が発生したら身一つで逃げ  
るのが最善の策であることがわかりま  
す。

三陸地方は過去にも度々大きな津波  
に襲われた歴史があります。過去に起  
こった自然災害は未来にも起こり得ま  
す。学生の皆さんは、是非今のうちに過  
去の地震や災害について書かれた本や  
資料を読み、あるいはネットで調べ、自  
然災害に対する造詣を深めて欲しいと  
思います。こうすることで、災害時に自  
分がどう行動すればいいのかを頭に焼  
き付けていただきた。子どもの命を預  
かる教員という職業を目指す皆さんな  
ら、なおさら大切なことだと思います。

**経験はいつか必ず  
役に立つ。だから  
マスターするつもりで  
取り組むことが大切。**



日本赤十字社 成田赤十字病院  
医療情報管理課 医療情報係  
**中川原 明 氏**  
2009年3月 体育学部 体育学科 卒業

## ●震災時の対応について

わたしたちのグループは、震災時に東京デイスニーランド  
へ医療支援に行くことになりました。道路は大渋滞してお  
り、特別な許可を得て通行止めとなった高速道路で何と  
現地まで行くことができました。そこでは液状化現象で電  
柱が傾いたり、地面の隆起や陥没が激しかったりと異常  
な現状に園内の混乱を予想しました。しかし、園内の救護  
施設ではスタッフがしつかり組織化され、混乱した様子は全  
くありませんでした。普段の訓練通り、それぞれのスタッフ  
が冷静に臨機応変に対応しているのを見て、とても感心し  
ました。

## ●現地での具体的な活動

わたしは、医師の支援や情報収集、そして各方面への現状  
の報告などを重点的に行いました。学生るとき野球部の  
データ班だったこともあり、その経験がこの時は役に立ちま  
した。今の仕事も病院のシステムの管理や運営なので  
が、震災当時、信頼できる情報の選り方、効果的な伝え方な  
どが重要でしたから、経験をその場で活かすことができました。

## ●活動を通じて感じたこと

わたしは、大学で受けた水泳指導実習（日赤水上安全法）  
から救急法に関心を持つようになり、日赤を就職先を選び  
ました。普段は日赤の職員であることを意識する機会があ  
まりなかったのですが、現地でもとても頼りにされ、改めて日  
赤の職員として働いている喜びを感じた半面、責任の重さ  
と仕事の重要さを強く感じましたね。

## ●学生たちに伝えたいこと

とにかく目の前のことに真剣に取り組むことが重要です。  
こんなことが役に立つのかと思うかもしれませんが、いつか  
つながることがあるはず。学生生活をただこなすのでは  
なく、マスターするつもりで真剣にチャレンジしてください。  
わたしも日々そのことを意識して仕事をしています。



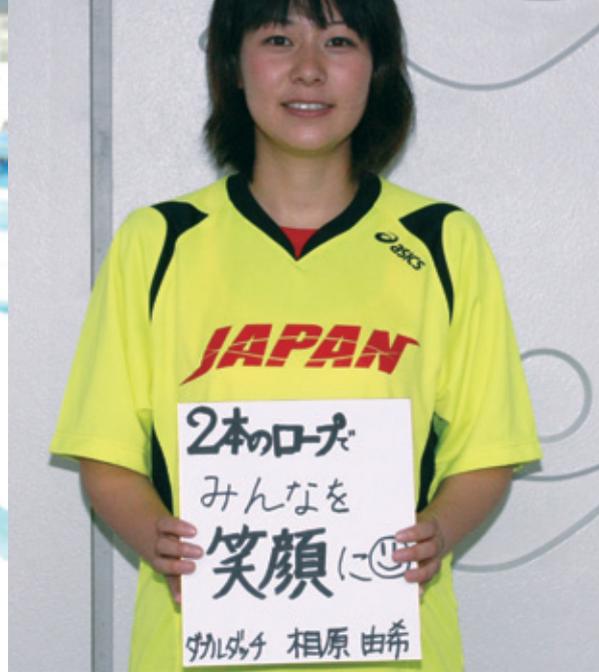
小稲 美佳  
(体育学科4年)



阿部 香菜  
(短大体育科1年)



相原 由希  
(社会体育学科4年)



和田 周  
(体育学科3年)



# できること、 できること

私たちは誰よりもスポーツを愛している。

スポーツを通して人々の役に立ちたい、  
元気にしたい。

そんな想いを大切に、できることから始めよう。

日体大生たちに、熱いメッセージを発信してもらった。

堀川 こず恵  
(体育学科1年)



加藤 靖明  
(健康学科3年)



佐藤 鉄馬  
(武道学科2年)



山口 亮二  
(体育学科4年)



田中 まい  
(体育学科4年)



荻野 州平  
(体育学科2年)



# スポーツに 私たちに



辻 孟彦  
(体育学科4年)



鈴木 詩史  
(体育学科3年)



## 鈴木 政一 (すずき まさかず)

- 体育学科 准教授
- ◆ 日本体育大学体育学部体育学科 学士(体育)
- ◆ 運動方法(サッカー)
- ★ 学生時代は全日本大学サッカー選手権優勝など、社会人ではヤマハ発動機サッカー部で天皇杯優勝など。また監督としてジュビロ磐田をリーグ優勝に導き、最優秀監督賞、優秀監督賞等を受賞しました。
- ♥ やはり日体大生には、常に高い目標を持ち、達成する為に最大限の努力をしてほしいと思います。わたしは日体大サッカー部を1年でも早く関東リーグ1部に昇格させたいと強く思っています。また、リーグ等へのプロ選手の輩出も目標として視野に入れながら、プロの指導者の育成にも取り組んでいきたいと考えております。



## 清水 雅彦 (しみず まさひこ)

- 教養・教職科 准教授
- ◆ 明治大学大学院法学研究科公法学専攻博士後期課程 修士(法学)
- ◆ 憲法学(平和主義、監視社会論)
- ★ 札幌学院大学法学部教授を経て赴任しました。平均週1本映画を見ており、特にアジア・ヨーロッパの重たい作品が好きです。また前任校では鉄道研究会の顧問をしていました。このほか大型二輪でのツーリング(愛車はK100RS)が趣味です。
- ♥ 日体大生はさすがに体育系、挨拶がきちんとでき、すがすがしい学生が多いですね。一方で、授業中の居眠り・座っているだけ・私語学生が多いのは残念。体育だけの偏った人間にならないよう、貪欲に幅広く勉強しましょう。授業で何度も言うように、「無知は恥」だし、知的好奇心を失ったら、進歩しません。



# 新採用教員 フリートーク

- 所属学科
- 最終学歴
- ◆ 専門・研究テーマ
- ◆ ひとこと
- ♥ 日体生へメッセージ

今年**15名**の先生方が新たに着任しました。輝かしい研究業績・競技歴・指導歴、多彩な経歴、趣味をお持ちの方々ばかりです。ご自身についてのひとこと、そして日体大生へのメッセージを語っていただきました。

## 近藤 智靖 (こんどう ともやす)

- 教養・教職科 准教授
- ◆ 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科博士(体育科学)
- ◆ 体育科教育学 スポーツ教育学
- ★ 北海道公立小学校教諭、白鴎大学教育学部准教授を経て日体大に着任しました。研究領域では、ドイツ語圏の学校体育における調査にも取り組んでいます。趣味は小さな娘との散歩です。
- ♥ 日体大は日本でもっとも多くの保健体育教師を輩出している伝統校です。しかし、ここ数年、保健体育の免許を取得できる大学が全国的に多くなり、激しい競争にさらされています。これまでの偉大な先輩達が切り開いた道を今後引き継げるよう、皆さんと一緒に頑張りたいと思います。他大学に負けないよう燃えましょう。



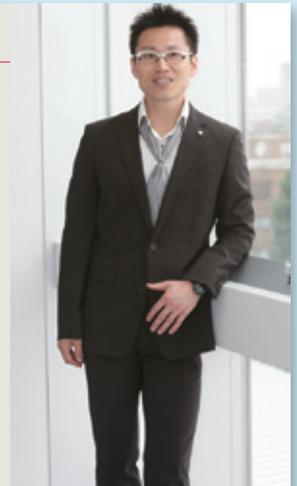
## 北島 洋美 (きたじま ひろみ)

- 健康学科 准教授
- ◆ 桜美林大学大学院国際学研究所老年学専攻博士前期課程 修士(老年学)
- ◆ 「住み慣れた地域で高齢者等が住み続けていくためのサポート」と「それを支える人材の育成」
- ★ 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会にて福祉の現場を経験しました。一番の趣味は読書です。活字中毒なので漫画からことわざ辞典まで何でも読みますが、特にミステリー系小説が好きです。
- ♥ 「まっすぐに向いてくる視線が良いな」というのが日体生の最初の印象です。日本は超高齢社会に突入し、健康で長生きしたいと思う人が増えています。その中で身体の機能やスポーツの効果を知り、人とまっすぐに向きあえる皆さんこそが、健康長寿社会の支えになるはず。有意義な学生生活を送り、大きく羽ばたいて下さい。



## 岡本 孝信 (おかもと たかのぶ)

- 健康学科 准教授
- ◆ 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程博士(人間科学)
- ◆ 呼吸循環機能を中心とした運動生理学
- ★ 趣味はパラエティを見ておもいきり笑うことです。ナイナイの岡村隆史さんやたむらけんじさんが好きです。若手芸人では2700に注目しています。また、週に2回はトレーニング(筋トレ、ジョギングなど)をしています。
- ♥ 私は「笑う門には福来る」という言葉が好きです。学生の皆さんも常に笑顔を忘れずにクラブ・サークル活動にも勉強にも恋愛にも貪欲にチャレンジしてほしいです。努力の後にはきっと女神が微笑んでくれるでしょう。日体大の4年間はかけがえない出会いがたくさんあり、自身の人生を大きく変えてくれます。充実した4年間を過ごして下さい。



## 小嶋 新太 (こじま あらた)

- 武道学科 准教授
- ◆ 日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程 博士(医学)
- ◆ スポーツ選手のコンディショニング
- ★ 競技歴は全日本ジュニア柔道大会(+95kg級)優勝、全日本学生柔道選手権大会(無差別)優勝、全日本柔道選手権大会(無差別)3位、太平洋柔道選手権大会(100kg級)優勝など。学生と共に汗を流したいです。
- ♥ まだ、成し得ていない団体優勝を達成させ、世界選手権やオリンピックで金メダルを獲得できる選手を育成することが目標です。柔道を通じて礼儀正しく人間性豊かな人材を育てていきたいと思えます。



## 波多腰 克晃 (はたこし かつあき)

- 武道学科 准教授
- ◆ 日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士後期課程 博士(体育科学)
- ◆ ドイツのスポーツに関する研究
- ★ 趣味は読書+人間観察(お茶をしながら、読書しつつ、街ゆく人々を観察して時間を過ごす)です。
- ♥ 子供の頃に親を悩ませた「空はなぜ青いの?」「私はどこからきたの?」「なんでお星さまは落ちてこないの?」などの純粋無垢で素朴な疑問。大学生となった今、もう一度問うてみませんか?そして、その答えを親に求めるのではなく、この大学生活の中で徹底的に悩み続けるのです。目標を達成するために全力を注ぐことができる日体大生であればできます。期待しています!



## 宇部 弘子 (うべ ひろこ)

- 短期大学部体育科 准教授
- ◆日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程 修士(心理学)
- ◆心理学、アサーション・トレーニング (臨床心理士・精神保健福祉士)
- ★中学校の部活はソフトテニス。大学でも1年だけ体育会の軟式庭球部にいました。その後、運動といえば、愛犬「こころ」の散歩くらいですが、なにより癒される大切な時間です。
- ♥スポーツと正面から向き合っている日体大の学生さんは、自分のからだには詳しいと思います。しかし、自分を高め、スポーツの魅力や技術を人に伝え育むには「こころ」とも向き合うことが大切です。人はひとりひとり違います。その違いを知り、認め、向き合うことで、柔軟でたくましい「こころ」を手に入れ、より自分らしい自分になっていってください。



## 櫻井 規子 (さくらい のりこ)

- 社会体育学科 助教
- ◆日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程 修士(体育科学)
- ◆アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ外傷・障害
- ★国内外問わず旅行が好きです。日体大体育学部健康学科入学と同時に日体柔整専門学校に入学し3年間ダブルスクールで柔道整復師免許を取りました。社会人を経験しそして日体大大学院へ。日体一筋で歩んできました。
- ♥母校である日本体育大学で教鞭をとることができ本当に嬉しく思っております。私自身、日体大を卒業し社会に出て、「日体大を出てよかった」と思うことがたくさんありました。皆さんもきっと近い将来同じことを思う日が来ると思います。それまで、「日体生として今できること」を精一杯頑張りたいと思います。



## 関 芽 (せき めぐむ)

- 短期大学部体育科 助教
- ◆東京理科大学大学院人文科学研究科教育学専攻博士課程 修士(教育学)
- ◆教育行政学
- ★バイクや自転車など、乗り物ならなんでも大好きです(ジェットコースターを除く)。また、大学時代から始めたヨットレースは現在でも続けており、週末は主に35フィート(約11m)のヨットに乗り、レースに出場しています。
- ♥勉強や自分の専門競技はもちろん、バイトや遊びなど大学生活でしか体験出来ないことを思う存分楽しんで下さい。自分が興味をもったことをより深く探求することも重要ですが、大学生活の中で色々なことにチャレンジしてみると、自分の奥底に潜んでいた意外な才能に気づくことがあるかもしれません。



## 高橋 流星 (たかはし すばる)

- 体育学科 助教
- ◆日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程 修士(体育科学)
- ◆ソフトボール競技・野球
- ★大学時代は全日本大学ソフトボール選手権大会2連続優勝など。ソフトボール・野球の授業展開・指導法や普及・発展について研究を進めています。趣味は映画観賞・スポーツ全般。
- ♥夢を持ち続け、決してあきらめないこと。



## 亀山 有希 (かめやま ゆうき)

- 短期大学部体育科 助教
- ◆日本体育大学大学院体育学研究科修士課程 修士(体育学)
- ★生涯スポーツ参加のための発展的課題の研究ほか
- ◆ダンス全般が好きです。自分自身も踊り手として、ジャズやズンパなどのレッスン、日本の踊り(民族舞踊)にも定期的に参加しています。また、YOGAなども取り入れ、心身の充実を図るよう心がけています。
- ♥私は日本体育大学で6年間学びました。このときの経験や仲間・先生方との出会い、部活動等がその後の人生を歩んでいく上で私の大きな柱となっています。在籍している学生のみならずには、ぜひ、想像力を培いながら、専門性を見出し、主体性をもった豊かな活動経験を積み重ねてほしいと思っています。



## 須永 美歌子 (すなが みかこ)

- 短期大学部体育科 准教授
- ◆日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程 博士(医学)
- ◆運動刺激に対する生理反応の男女差や月経周期の影響
- ★女性のための効率的なトレーニングプログラムを作成することを目標として研究を進めています。時間をかけて、ゆっくり丁寧にコーヒーを淹れているときに幸せを感じます。コーヒーに合うスイーツがあれば、もっと幸せです。
- ♥真面目で純粋で、ひたむきに努力することができる日体生が大好きです。競技力、学力、コミュニケーション力など様々な面において常にスキルアップを図り、充実した学生生活を送ってください。私も皆さんとともに、常に向上心を持って教育や研究に取り組んでいきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。



## 木下 佳子 (きのした よしこ)

- 短期大学部体育科 助教
- ◆筑波大学大学院体育研究科スポーツ科学専攻修士課程 修士(体育学)
- ★バスケットボール戦術研究
- ◆日本航空バスケットボール部で5年間プレーしました。趣味は水泳、ダイビング、登山やバドミントン、スキー等々・体を動かすこと。また、旅先でその土地の食べ物をいただきながらその土地のお酒を飲む時が最高に幸せです。
- ♥バスケットボールの授業中に行っているゲームを見ながら、授業とは思えないレベルの高さに毎回驚かされると同時に、日体生の頼もしさを強く感じています。授業を通して、バスケットボールをやる楽しさ、また指導する楽しさというものを理解し、存分に堪能してもらえよう取り組んでいきたいと思っています。



## 別府 健至 (べっふ けんじ)

- 短期大学部体育科 准教授
- ◆日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程 修士(体育科学)
- ◆長距離(駅伝)選手における競技力向上
- ★1989年NECへ入社、選手・コーチを経て、1999年に日体大駅伝監督に就任。趣味は、時間を見つけてはジョギングをして汗をかくことです。特に、愛犬(クリマル)とのジョギング・散歩がリフレッシュになります。
- ♥日体大生というプライドを強く持って、学生生活を送ってほしいと思います。そのためには、常にチャレンジ精神(前向きな気持ちと行動)を心掛けてほしいです。そうする事で例え成功に至らなくても必ず何かが発見でき、次に繋がると思います。卒業時に日体大生で良かったと思える学生生活であってほしいです。



人々がスポーツに求める価値はいつそう多様化しています。受験生においても、競技者・指導者を志す者はもちろんのこと、さまざまな場面でスポーツを通じて社会に貢献したいという意識が高まってきました。これに応えていくことが本学の使命であり、さらに広く門戸を開放するため、入試改革を推進しています。

●平成23年度学生募集を振り返って

全国の体育・スポーツ系学部等の志願者が、前年度比100.3%であったのに対して、本学はおよそ8%の志願者増となりました。これは、広報課員を中心に多くの教職員が積極的に説明会に出席し、本学の魅力を丁寧にアピールしていった結果だといえます。

●地域ブロックAO入試の狙い

リードを科学的にサポートしてみようという志を持った高校生などにもチャレンジしてもらいたいと考えています。

●平成24年度学生募集の強化ポイント

さまざまな個性や経験を有する人材が集えるよう、受験機会を拡大します。実技試験を課さない一般入試B方式や地方から優秀な高校生を誘う地域ブロックAO入試、プロスポーツ選手のセカンドキャリアを支援するリカレント入試など、これまで以上に幅広く学生を募集していきます。

●リカレント入試への期待

近年、本学学生は、およそ63%が関東1都6県の出身者で占められています。このことは、これまで全国から多くの優秀な人材を誘い、そして送り出してきた日体大にとって看過できない問題です。そこで、将来は出身地域でスポーツを軸とした職域において活躍することが期待される高校生を対象に地域ブロックAO入試を新たに実施します。また、47都道府県全てに指定校推薦(全国指定校)の枠を設け、地方とのネットワークをさらに強固なものにしていきます。

●一般入試B方式のターゲット

3月初旬に実施する一般入試B方式は、実技試験を課さず、学力試験のみで入学者を選抜します。これまでの一般入試では、体育学科とその他の3学科との併願が可能ですが、実技試験が全学科共通であるためにケガや体調不良でチャンスを逸することがありました。さらに本学のライバル校にあたる新・増設の体育・スポーツ系学部の多くが、実技試験を課しておらず、本学の入試は受験生にとって負担であったと理解しています。スポーツの実績に秀でていなくても、スポーツが好きで、スポーツを学びたいという強い思いを持っていただければ、本学の学修には充分対応できます。例えば、化学や物理が大好きで、その知識を用いてアス

●受験生の皆さんへ

スポーツが大好きで、スポーツについて学びたいという思いを強く抱いている「わたし」であれば、本学での学生生活はきつと充実したものであるでしょう。特に本学は、あらゆる

スポーツへの情熱を持つ人が  
広くチャレンジできる  
入試へ

アドミッションセンター長  
荻 浩三 准教授



(平成24年度入試制度変更点)

【体育学部】

- ①「AO入試」は、これまでの「トップアスリートAO入試」「各学科AO入試」に加え新たに「地域ブロックAO入試」「併設校AO入試」を導入します。
- ②「体育学科AO入試」を全ての専攻で募集します。また募集人員を増員(50名→60名)します。
- ③「武道学科AO入試」では、募集人員を増員(45名→70名)します。
- ④「一般入試」は、2月に実施している従来の「筆記」+「実技」による試験を「A方式」とし、新たに3月初旬、実技試験がない筆記試験のみの「B方式」を導入します。
- ⑤現役を引退したトップアスリートを対象とした「リカレント入試」を新たに導入します。

【短期大学部】

- ⑥「幼児教育保育科AO入試」では、募集人員を増員(15名→25名)します。
- ⑦「体育科一般入試」では、募集人員を増員(5名→15名)し、面接試験を廃止しました。
- ⑧「幼児教育保育科一般入試」では、筆記・面接各150点とし、総合点で合否を判定します。

# ～新しい「スポーツ」

## 一般入試 B 方式(筆記試験のみ) を新たに導入

### 一般入試

#### A 方式(従来型) 2月

筆記試験(マークシート方式)

- ・必須 国語(国語総合:古典を除く)
- ・選択 英語(英語I・II)、数学(数学I)  
2科目から1科目

実技試験

- ・必須 50m 走 ※
- ・選択 上体起こし、反復横とび、  
ハンドボール投げ  
3種目から2種目選択

※天候またはグラウンドの状態によっては立幅とびに変更することがある

+

#### B 方式(新規導入) 3月

筆記試験(マークシート方式)

- ・必須 国語(国語総合:古典を除く)
- ・選択 英語(英語I・II)、数学(数学I)  
2科目から1科目

出願時に運動能力を証明するための  
「スポーツ調書」を提出

全国5ブロックから50名を募集

## 地域ブロック AO 入試(体育学部)

全国各地域から優れた学生が日体大に集うよう、全国を5ブロック(関東一都六県は除く)に分け、バランスよく学生を募集する新たな制度です。志願者の該当ブロックは、在籍・出身高等学校の所在地に基づくものとします。

### 出願要件

- (1) 本学体育学部(各学科)への志望動機が明確で、かつ第一志望であること。
- (2) 学業成績は全体の評定平均値 3.0 以上であること。
- (3) スポーツへの関心が極めて高く、出願学科のアドミッションポリシーと自身の目標とが合致し、将来、それぞれの出身地域に戻り、当該分野を中心に活躍・貢献しようという強い意欲を有する者。

### 九州ブロック

10名

福岡県 佐賀県  
長崎県 熊本県  
大分県 宮崎県  
鹿児島県 沖縄県

### 北信越ブロック

10名

新潟県 富山県  
石川県 福井県  
山梨県 長野県

### 北海道・東北ブロック

10名

北海道 青森県  
岩手県 宮城県  
秋田県 山形県  
福島県

### 近畿・東海ブロック

10名

岐阜県 静岡県  
愛知県 三重県  
滋賀県 京都府  
大阪府 兵庫県  
奈良県 和歌山県

### 中国・四国ブロック

10名

鳥取県 島根県 岡山県  
広島県 山口県 徳島県  
香川県 愛媛県 高知県

## 2011年度 オープンキャンパス 開催日

### 【東京・世田谷キャンパス開催】

平成23年 8月20日(土)、21日(日)、22日(月)、  
平成23年 12月 4日(日)、平成24年 3月25日(日)

### 【横浜・健志台キャンパス開催】

平成23年 7月23日(土)、24日(日)、9月25日(日)

◆大学案内に関する問合せ:東京・世田谷キャンパス 広報課 03-5706-0948(直通)

◆入学試験に関する問合せ:横浜・健志台キャンパス アドミッションセンター  
045-963-7955(直通)

◆受験生応援サイト「エッサッサ」 <http://www.nittai.ac.jp/essassa/>

全日程:10:30~15:00  
予約不要・入退場自由



# ヤー養成をめざす、大学院の新たな展開～

●文部科学省委託事業：大学スポーツ研究活動資源活用事業

平成23年4月、大学院体育科学研究科博士前期課程に「体育実践学コース」を新設した。これは、体育の専門分野で活躍できる高度な実践力を備えた「スーパーコーチャー」「スーパーパーティーチャー」養成を目的としたものである。今回、文部科学省「大学スポーツ研究活動資源活用事業」の委託を本学が受け、同研究科「体育実践学コース・コーチング学系」との緊密な連携のもとプロジェクトを展開することになった。その取り組みについて紹介する。

## ●本プログラムの狙い

日体大の関係者は、数多くのメジャー大会で優秀な成績を残しています。とくにオリンピックでは、33個の金メダルを含む108個ものメダルを獲得しているのです。その数は日本全体で獲得したメダルの1/4の数にもおよびます。それは本学がトップアスリートを育成してきただけでなく、グラスルーツの競技者まで幅広い競技者を対象に、効果的な指導をしてきた証だとも言えるのではないのでしょうか。このように、コーチ、および指導者は現場で選手に指導し、よりよい記録や勝利のために一生懸命やっています。しかし、そのコーチについては日本ではあまり研究されていないようです。一方、海外ではコーチについての研究が盛んに行われています。世界と対等に肩を並べ、そしてそこから一歩でも、二歩でも抜

が上ったのか、あるいは下がったのか、それをプログラム化し、今度は授業に還元して、さらにブラッシュアップするというサイクルになるので、大学院体育実践学コースとの連携は重要なポイントになるのです。スポーツは、グラウンドや体育館など、フィールドで行われています。文字通りフィールドワークが不可欠なので、実践を行う体育実践学コースでやるのが最適なのです。

## ●プログラムの具体的な展開

先にお話ししました学内で行われている指導法について分析、評価しつつ、「本学モデルのコーチ指導法プログラムの開発」および「パフォーマンス分析・応用システムの開発」の研究を行う計画です。この事業には、

1. 日体大モデルのコーチ指導法プログラムの開発
2. パフォーマンス分析・応用システムの開発
3. コーチ実践指導力の向上プログラム開発
4. 研究成果の共有

## ●大学院体育実践学コースとの連携

まず、現在学内で行われている指導法について分析、評価する必要があります。例えば、選手にどんなタイミングで、どんな声をかけたのか、またかけなかったのか。その結果選手はどう反応したのか、どのようにパフォーマンス

「日体大モデルのコーチ指導法プログラムの開発」は、学内コーチ指導法等の現状分析・評価を行います。まずは多くの日本代表選手を輩出している体操競技（個人種目）および、バレーボール（団体種目）を例として、コーチングの現状と分析・評価を行い、今後の課題を設定します。また、本学の関係者に限らず国内外

## 本学の実績を評価・体系化し、 スポーツ界に貢献

体育学部体育学科  
大学院体育科学研究科体育実践学コース  
コーチング学系

伊藤 雅充 准教授

コーチ調査を行います。2011年8月末にはフランスで開催される世界コーチ教育協議会で、世界のコーチ教育事情に関する情報収集をします。もちろん、とくに本学出身者で全国各地で優れた実践指導を行っているコーチの調査も行います。そして、コーチ・カンファレンスで情報の共有とプログラムの分析をします。

「パフォーマンス分析・応用システムの開発」では、映像分析に関してコーチの質的な分析能力を向上させることに重点を置いて映像を活用していきます。同時に、実際の競技バ

パフォーマンスを数値化したゲーム分析を行います。またコーチの職業専門性を高めるためにコーチング実践の映像・音声分析・活用したコーチ指導システムを構築していきます。

「コーチ実践指導力の向上プログラム開発」については、上記のプログラムと活動を通じて優秀なコーチを育成するプログラムを開発する予定です。

そして「研究成果の共有」ではJOCコーチ会議、JISSスポーツ科学会議などにて発表することで、このプログラムが本学のノウハウや財産としてだけでなく、日本国全体の財産として存在し、そして共有することが可能です。

## ●日体大として期待されること

これまでには全くなかった研究であり、プロジェクトです。それゆえやってみないとわからないことが数多くあります。しかし、期待に応えるものができるかと確信しています。この事業により、まずコーチの質の向上が期待できます。優秀なコーチが優秀な選手を育てること



# ～スーパーコーチ、スーパーティーチ

コーチ実践指導力の向上プログラムの開発

はこれまでもできてきましたが、その優秀なコーチは誰かが育ててきたのではなく、自己のスキルとポテンシャルによって優秀なコーチになった傾向があります。しかし、この事業を通してつくりあげるプログラムでは優秀なコーチを育成するプログラムができあがるのです。つまり、優秀なコーチを育成すれば、優秀な選手が自ずと育つてくるというわけです。だから、文部科学省も私たちに大きな期待をしているのではないのでしょうか。

## ●大学院体育実践学コースを目指す 学部生へのメッセージ

今やっているスポーツに対し、一生懸命に取り組んで下さい。スポーツに打ち込んでいるからこそ、見えてくるものがあります。とくにスポーツのコーチングでは、「できる」「みせられる」ことがアドバンテージになります。経験や実践を通して学ぶことは非常に大事で、理論は立派でも実践できないと何も意味をなさないことが数多くあるのです。とにかく経験することが非常に大事です。また、このプログラムはどこかの時点で完成するのではなく、常に進化・深化していくものです。時代が変われば、コーチングの方法ももちろん変わってきます。だから2年のコースが修了したらそれで終わりではもちろんありません。そこがらがスタートでもあり、そしていつまでも学ばないとならないのです。言い換えればコーチが常に学ぶことができる場と環境をつくることでもあるのです。最後にサッカー元フランス代表監督の言葉を贈ります。

「学びのことを辞めたときに、  
教えることもやめなければならぬ」

## 「コーチ実践指導力の向上プログラムの開発」の展開

### 日体大モデルのコーチ指導法プログラムの開発

- ①学内コーチ指導法等の現状分析・評価  
現状の検証と分析・評価を行い、今後の課題を設定する
- ②国内外コーチ調査  
国内外の優れたコーチング実践を行っている個人や組織の指導法等調査
- ③コーチ・カンファレンス  
調査・分析結果に基づきコーチングの質向上を目的としたプログラム開発に向けてカンファレンスを実施

### パフォーマンス分析・応用システムの開発

- ①映像分析  
個人や組織の技術・戦術向上を目指したコーチングに映像を分析・活用する
- ②ゲーム分析  
実際の競技パフォーマンスを数値化し、トレーニングやコーチングの目標設定等に活用する
- ③コーチング分析  
コーチング実践の映像・音声を分析・活用したコーチ指導システムを構築する

### コーチ実践指導力の向上プログラム開発

### 研究成果の共有

JOC コーチ会議、JISS スポーツ科学会議 etc

## 文部科学省 大学スポーツ研究活動資源活用事業

オリンピック競技大会に選手を輩出している大学に着目し、各大学が研究資源等を活用し実施している独自の選手強化活動を推進し、先駆的なスポーツ研究活動等の深化を図るとともに、その研究成果等を日本オリンピック委員会 (JOC)、中央競技団体 (NF)、国立スポーツ科学センター (JISS) と共有し、実践的な普及を行うことにより、我が国の競技力向上を図ることを目的としている。





TOPICS

### ドイツ・アルプシュタット市にて日独文化交流が行われました

平成23年5月下旬、本学の代表团(団長：瀧澤康二副学長)はドイツ・エビンゲン体操クラブが創立150周年を記念した「記念体操実技会」に参加するため渡独し、ティーアインゲンやシュツットガルト、ザールブリュッケンで実技発表を行いました。

日本のお家芸である器械体操をはじめ、柔道、剣道、空手、少林寺拳法、弓道、合気道、伝統芸能(和太鼓等)などを披露し、多くの観客を魅了しました。

参加したのは学部生66名、短大生10名、大学院生1名、研究員1名、教員16名の計94名。ドイツ・アルプシュタット市に招かれ実現に至りました。

現地メディアにも取り上げられ、日本のスポーツ文化を紹介し、被災地に対しスポーツ・武道を通じて、ドイツからもエールを送る手助けができました。



TOPICS

### 不祥事再発防止の一環として警察講話を実施しました

平成23年5月28日(土)横浜・健志台キャンパスにて行われた平成23年春季学友会総会にて、警視庁玉川警察署生活安全防犯係より講師をお招きして警察講話を実施しました。

当日集まった約1800名の本学学友会員に対し、不法薬物に関する映像資料を交えながら講話を行っていただきました。

学友会員は皆この講話へ真剣に耳をかたむけ、不祥事を教訓として2度と同じあやまちを繰り返すことのないよう再認識することができました。

今後も、本学から不祥事を起こさないためにも全学一丸となり、継続して再発防止活動を実施していく予定です。



TOPICS

### 全国同窓高等学校長・特別支援学校長懇親会を開催しました!

平成23年5月25日(水)、横浜マリントワーにて全国同窓高等学校長・特別支援学校長懇親会が開催されました。現在、全国には高等学校長128名(公立107名、私立21名)特別支援学校長13名の先生が本学のOBとして活躍しており、当日は50名近くの校長先生方にご出席いただきました。懇親会では本学の教員や級友の方々と懇親を深め、今後の日体大の活躍に大いに期待をしてお声をかけていただきました。

TOPICS

### 平成23年度入学式を挙行了しました。

平成23年4月3日(日)、横浜・健志台キャンパスにて、平成23年度入学式を挙行了しました。

開式に先立ち、谷釜学長よりこの時期に予定通り入学式を挙行する大学の意(おもい)と意義について、新入生および列席者に説明を行い、全員で黙とうを捧げました。

今年度の入学者数は以下の通りであり、日体大の学生として、体育・スポーツを通じ日本が置かれている厳しい状況乗り越える決意を新たにしました。

新入生保護者も1,705名のご参加をいただき、規模の縮小、簡素化しての開催ではあったものの、温かく、新入生の心に響く、特別な入学式でした。

設置	体育学部				専攻科	大学院	
	体育学科	健康学科	武道学科	社会体育学科	体育専攻科	博士前期課程	博士後期課程
大学	846名	194名	130名	197名	12名	42名	11名
短大	154名	41名	専攻科保育専攻				
			28名				

TOPICS

### 平成22年度第三者評価適格認定証(日本体育大学女子短期大学部)が学長に贈呈されました。

平成23年5月15日(日)にホテルグランドパレスにおいて、平成22年度第三者評価適格認定証贈呈式が開催されました。

平成22年度第三者評価において適格と認定された全国74校の短期大学関係者が出席し、認定証の贈呈を受けました。本学(日本体育大学女子短期大学部)からは、谷釜了正学長、坂井元短期大学部長が出席しました。



TOPICS

### 猪谷千春氏 日本体育大学名誉博士称号授与式・記念講演会

平成23年6月23日(木)、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて「日本体育大学名誉博士称号授与式」を挙行し、猪谷千春氏(前国際オリンピック委員会副会長)に本学からは5人目となる名誉博士称号を授与いたしました。

これは猪谷氏が長年にわたる国際オリンピック委員会(IOC)の委員・理事・副会長として内外のオリンピックムーブメントの推進に尽力し、スポーツを通じた国際社会の平和の実現に向けた顕著な功績に対し授与したものであります。

授与式後には「我がスポーツ人生」をテーマに記念講演を行っていただきました。自らの活動実績や経験をお話され、本学の学生も真剣な眼差しで聞いており、猪谷氏から本学へエールを送っていただきました。



Open Campus



# NITTAIDAIの『オープンキャンパス』へ行こう!

## 【東京・世田谷キャンパス開催】

平成23年 8月20日(土)、21日(日)、22日(月)、  
平成23年 12月 4日(日)、平成24年 3月25日(日)

## 【横浜・健志台キャンパス開催】

平成23年 7月23日(土)、24日(日)、9月25日(日)  
全日程:10:30~15:00 予約不要・入退場自由

### ●実施プログラム(予定)

- ①大学・短大紹介「日体大ってどんな大学?」
- ②入試説明会(AO入試・推薦入試・一般入試ほか)
- ③授業体験
- ④一般入試実技試験 体験コーナー
- ⑤保護者向け講座(60分):キャリア教育【就職状況】、  
学費、奨学金など紹介
- ⑥受験生応援セレモニー
- ⑦キャンパスツアー
- ⑧個別相談コーナー 等

Festival



# 日体フェスティバルへ行こう!

## 横浜・健志台キャンパス開催

開催日 平成23年11月4日(金)~11月6日(日)  
テーマ 『日体大 for JAPAN ~元気・笑顔・共動~』



東日本大震災での被災者に対して、日体大(日体フェスティバル)としてできる復興支援をしていきたいとこのテーマを掲げました。

元気=日体大の元気を被災地始め日本中に発信したい

笑顔=日体フェスティバルに来場する学生、教職員、地域住民など全ての来場者が笑顔になってもらいたい。

共動=「共に動く」という造語

スポーツ教室やイベントと一緒に動くことで交流を深めていきたい。

※詳しいスケジュールについては、後日、本学のHPなどで紹介いたします。

【編集後記】震災の影響で慌ただしい中、無事に新入生を迎え早いもので前学期が終わろうとしています。

私はこの春から社会人としての一歩を踏み出したばかりです。

この3ヶ月、高校生を対象に進路に関する説明をする機会が多くあり、私が高校生の時に何を聞きなかったかを思い出し、数か月前まで日体生であった経験も伝えています。直接高校生と話していると、私も日体大に入りたかった時の気持ちを思い出させてくれます。

職員として今しか見せられない「日体大生の感覚」や、雰囲気等「日体大スピリット」を感じてもらえればと思います。憧れていた日体大で後輩たちに、夢を叶えるステージに上がる力になっていきたいと思っています。